

来週の市場とレート予想

	9/18(月)	9/19(火)	9/20(水)	9/21(木)	9/22(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券		+ 600	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他		△ 1,800	+ 27,000	+ 2,000	△ 3,000
資金需給		△ 1,200	+ 27,000	+ 2,000	△ 4,000
主要要因		国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券(1Y) 国債発行(5年・10年・20年・30年) 国債償還(5年・10年・20年・変動15年)		
オペ期日	祝日	共通担保(全店) △ 1,500 CP等買入 △ 300 社債等買入 △ 100			被災地支援 △ 800
オペスタート		共通担保(全店) + 4,400 CP等買入 + 2,500	国債買入 + 8,800		
(日本)			日銀金融政策決定会合(1日目) 貿易統計(8月) 資金循環速報(4-6月)	日銀金融政策決定会合(2日目) 黒田総裁会見 全産業活動指数(7月)	日銀営業毎旬報告(9月20日現在) 日銀の保有する国債の銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の銘柄別買入額
(海外)	NAHB住宅市場指数(9月) 対米証券投資(7月) ユーロ圏CPI(8月、改定値)	米 FOMC(1日目) 米 住宅着工件数(8月) 米 経常収支(4-6月) 米 輸入物価指数(8月)	米 FOMC(2日目) 米 イェレンFRB議長会見 米 中古住宅販売(8月)	米 新規失業保険申請件数(前週分) 米 フィラデルフィア連銀景況指数(9月) 米 FHFA住宅価格指数(7月) 米 景気先行指標総合指数(8月) 欧 ECB、経済報告発表 独 ドラク ECB総裁講演(フランクフルト)	米 グラス連銀総裁講演

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.015 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初361兆2,400億円から始まった。12日には国債買入・国庫短期証券買入オペを主因に363兆円台まで増加した。週末15日には、国債買入オペ等要因を受けて365兆2,700億円となった。無担保コールON物は、11日から13日にかけて徐々に地合いが強まり、同加重平均金利は△0.064%~△0.062%のレンジで推移した。14日には積み最終日を翌日に控え、取り手の動きが活発になり同金利は△0.059%に上昇し、週末15日は△0.060%で越週した。ターム物は、月内物を中心に△0.04%~△0.06%のレンジで出合が見られた。11日に「日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しについて」が発表され、9月積み期から11月積み期の同比率は21.5%となった。来週は国内では日銀金融政策決定会合(20日~21日)、海外ではFOMC(19日~20日)などが予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.01 ~ 0.0001
TDB 3M	△0.170 ~ △0.110
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約9,700億円で、週間償還額の約1兆400億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。連日、幅広い業態で月中償還の大型案件が見られたものの、案件数は膨らまず償還超となった。発行レートは、引き続き浅いマイナスから0%近辺での出合いであった。13日に、CP等買入オペ(2,500億円程度)がオファーされた。オファー金額の減額(3,500億円⇒2,500億円)の影響もあって、按分落札レートが△0.015%と前回比(△0.029%)上昇する結果となった。来週の償還額は、6,100億円程度となっている。一般事業法人では、有利子負債の圧縮目的で期日継続を見送り、償還超となる見通し。発行レートは、運用ニーズの強さもあって、マイナスから0%近辺での推移が予想される。現先レートは、-0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での動きであろう。

<TDB>

14日に行われた国庫短期証券3M第707回債の入札は、最高落札レート△0.1175%(前回債△0.1864%)、平均落札レート△0.1394%(同△0.2040%)と前回債からマイナス幅を大きく縮小した。一方、15日に行われた1Y第708回債の入札は、最高落札レート△0.1278%(前回債△0.1251%)、平均落札レート△0.1308%(同△0.1281%)と前回債とほぼ水準となった。セカンダリー市場の出合は、週末は3Mが△0.125%程度、1Yはやや買が見られ△0.15~△0.14%となった。

<レポ>

足許GC取引は週初0.09%近辺から始まった。積最終日前後もレート水準に大きな変化は見られず、△0.085%~△0.09%の出合い。国債の大量発行日となる20日受渡しはレートが大幅上昇。△0.07%台の取引が多く見られた。SC取引では、5年131回債のbidが週央以降増加。△0.50%近辺の出合いも一部見られた。10年347回債は週末にレートが大幅低下。△0.40%~△0.40%台後半で多く取引された。他2年378・379・380回債、5年132回債、10年340・341・342・343・344・345・346回債、20年161回債、30年55回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。